

届け 世界の果てまでも

令和3年 2月 5日

No. 63

文責 校長 飯久保一男

子どもの安心感

前号では、親子の会話から子どもの心理を考えてみました。親に正直に話をした人という浮かんでくるのは、アメリカ初代大統領のジョージ・ワシントンです。こんな逸話が有名です。



ワシントンが子どものころ、斧の切れ味を試したくなり、自宅の庭の桜の木を切り倒してしまった。しかしその木は、父親が大切にしていた桜の木だった。ワシントンは父親から「あの美しい桜を切ったのは誰か知っているか？」と問われた。嘘をついてはいけないと逡巡しながら、「お父さん、僕が斧で桜の木を切りました」と正直に打ち明けた。父親は怒るところか「勇気ある行動（正直な告白）に価値がある」と息子を許し、褒めたのだった。

…だいぶ前になりますが「トリビアの泉」というテレビ番組があったことをご存知でしょうか？ その番組の中で、この話がとり上げられたことを覚えています。実はこの話は、子ども向けに書かれたワシントンの伝記に、ワシントンを神格化し、嘘をついてはいけないう教訓のため、とり入れられた作り話であると紹介されていました。ワシントンが子どものころには、まだアメリカには桜の木はなかったようです。なお、この伝記の初版から第四版まではこの話は存在せず、売上を伸ばすために第五版から掲載されたとみられています。嘘をついてはいけないう話が作り話というのは、皮肉な感じがします。

考えていただきたいのは、この話が作り話であることや嘘をついてはいけないう・正直でありなさいということではありません。ワシントンの正直さを伝える逸話ですが、父親がワシントンに与えていた安心感について考えていただきたいのです。では、親が子どもに与える安心感とは何でしょう。

子どもが何かを隠していることに気づきました。

- 「怒らないから、正直に言いなさい」と言いながら、正直に話した子どもを叱ってしまう…。
- その上に「何で、もっと早く言わなかったの」と責めてしまう…。
- 子どもは「怒らないって言ったのに…」と不満を募らせてしまう…。
- 子どもが「お父さん（お母さん）には、絶対言わないで」と約束したのに、数時間後には、両親ともに知っている…。

このような親では、子どもは正直に話をしなくなりますし、自分にマイナスなことは隠そうとします。周りには知っているけれど、親がそれを知るのは最後という状況になりかねません。



「口うるさいけどお母さんが好き」「怒ると怖いけどお父さんが好き」という根底には、お母さん・お父さんは、**自分を愛してくれているという安心感**があるのです。こういう親子関係があると、例え厳しく叱っても、子どもの心は親から離れていきません。**子どもの自己肯定感を高めるための根底にあるものは、親の愛情であり、子どもに与える安心感である**と思います。

安心できる家庭があることは当たり前すぎる話ですが、考えてみてください。

前号でも紹介した早稲田大学名誉教授の加藤諦三さんのコラムです。こんなコラムがありました。

※わかりやすくするために、一部言葉を変えてあります。

人が愛されていると感じるというのはどういうことであろうか。それは、こんなことを話題にしてはいけないとか、こんなことを言ったら品が悪いと思われて嫌われるのではないとか、こんなことをしたら軽蔑されるのではないとか、そうした不安がないということである。

自分が欲しいものを欲しいと言っても怒られない、自分がしたいことをしたいと言ってもイヤな人と思われない、嫌いな食べ物を嫌いと言っても相手を傷つけない、それが安心感である。

眠いときに「眠い」と言っても失礼と思われない、勉強が嫌いなときに勉強が嫌いといってもバカにされない、怖いときに怖いと言っても軽蔑されない、学校に行くのがいやなときに「学校に行くのがイヤだ」と言っても「だらしない」と思われない、それが安心感であり、親しさである。その様に感じるのが愛されているということである。

いや、愛されているとは、自分が実際にだらしがなくて、だらしないと思われても見捨てられないと思っていられることである。自分が怠け者でも相手は自分を好きだろうと思っていられることである。



相手が自分のことを叱っても、怒っても、怒鳴っても、自分のことを好きであるという確信がくずれないこと、それが愛されているという安心感である。これをしたら相手は自分のことを品がないと思うだろうが、でも、自分のことを好きだという確信が安心感である。

世界的ベストセラー「子どもが育つ魔法の言葉」の著者、ドロシー・ロー・ノルトさんの言葉です。

「子どもが育つ魔法の言葉」…この紙面No.12でも紹介しています。

最後に帰ってくる場所。

どんなときでも温かく迎えてくれる場所。

それが家庭であり、家族なのです。

そこにしっかりと自分の居場所があればこそ人は安心して生きてゆけるのです。



私は、ものの整理が苦手です。重々承知しております。
校長室の机の上は、片付けたつもりでも乱雑になってしまいます。
家でも、ものの整理ができないので、妻からはプープー言われています。
しかし、家でも「整理しなきゃ」と、ピリピリしていたら、気が休まりません。
家では、自分をさらけ出せること、自分の心を開放(解放?)できることが大切です。

…誰か妻に言ってくれると助かるのですが…

本校ホームページ来訪者が60,000人を超えました!

いつもご覧いただきありがとうございます。より多くの方に見ていただき、小笠原小学校のことをよく知っていただけたらと思っております。さらに充実できるよう取り組みます。担任を通し、ご意見・ご感想などお寄せいただけたら幸いです。